

平成30年

目黒区教育委員会

第39回定例会会議録

(平成30年10月23日開催)

第39回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成30年10月23日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	尾崎 富雄
	教育委員会教育長職務代行者	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	後藤 幸子
	教育委員会委員	櫻井 道雄

出席職員	教育次長	野口 晃
	教育政策課長	山野井 司
	学校統合推進課長	和田 信之
	学校運営課長	村上 隆章
	学校施設計画課長	鹿戸 健太
	教育指導課長	田中 浩
	教育支援課長	酒井 宏
	統括指導主事	寺尾 千英
	統括指導主事	古舘 秀樹
	八雲中央図書館長	増田 武

書記		小野塚 幸隆
		山東 隆博

(議事日程)

- |      |      |                               |
|------|------|-------------------------------|
| 日程第1 | 報告事項 | 平成30年度教育施策説明会（後期）の説明項目について（案） |
| 日程第2 | 報告事項 | 平成30年度前期目黒区立学校におけるいじめの状況について  |
| 日程第3 | 報告事項 | 学校給食使用前食材等の放射性物質検査の結果について     |

資料配布

- ・区内保育園における細菌性赤痢の発生後の状況と対応について

(午前9時30分開会)

- 教育長 第39回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員はございません。欠席職員は生涯学習課長です。署名委員は櫻井委員です。  
それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 平成30年度教育施策説明会(後期)の説明項目について(案)(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員 日時のところですが、日曜日開催とあります。これは、11月17日が東山小学校の60周年の行事と重なったため、翌18日の日曜日開催としたのだと思いますが、どうしてなのでしょう。また、今回日曜日開催に当たって、開催後に参加人数が出てくると思うので、日曜日開催がどうだったということを含めて報告していただきたいと思います。これは要望です。
- 説明員 日曜日にした理由ですが、通常ですとこの翌週の土曜日を予定しているのですが、ちょうど3連休に当たったため、前倒ししたときに、周年行事が重なっているということで、委員のおっしゃるとおり、日曜日としました。  
人数、状況については、きちっと把握をし、報告したいと思います。
- 教育長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 「平成30年度前期目黒区立学校におけるいじめの状況について」(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等ございますか。
- 委員 3ページの(6)いじめられた児童・生徒への特別な対応状況のところ、②の「別室の提供や教職員が常時付き添い安全確保」についてですが、小学校では15件もあります。これは、いじめ

の程度が重いということでしょうか。別室に被害にあっている子を守る体制が強固な感じがします。

○説明員 中学校に比べて、小学校の場合は行為を受けてそれを深刻に受けとめ、学校にいたくない、行きたくないというケースがございます。そういったケースに関しては、学校から別室を用意するよ、別室で勉強できるよ、気持ちが楽になったら教室に行ったり、別室に戻ってきたりということを繰り返していいよ、という対応しています。この行ったり来たりの対応をする中で教室に戻していくという作業となりますので、中学校よりも小学校でそういった対応が多くなっていると考えております。

○委員 いじめの早期発見、早期対応というところで、情報がどこまで伝わるのかというのがいつも気になるところです。今後の進め方として、教育委員会の中の情報の伝達、それからどこまでその情報を公表していくのかといったようなことについても、補足説明等をいただきたいと思います。要望です。

○委員 ヒヤリ・ハットとアクシデントという視点で見ると、冷やかしゃ悪口、嫌なことを言われるというのはヒヤリ・ハットに相当すると思っています。これをどうやって対応するかということが重要だと思っています。軽微なものについての対応について学校間の格差が出てくると思いますが、学校に対してどのように指導しているのでしょうか。

○説明員 学校間の格差につきましては、さまざまあると捉えております。まず、学校の中でも学級間、教員間によって、いじめと捉えるかどうか、認知するかどうかということに差があると思っていますし、どう対応していくかといったところにも差があると思います。その差を埋めていくのが我々の仕事と思っていますので、軽微なものについてもしっかりと把握するように促しました。その結果、いじめがゼロという学校が、昨年度は小学校、中学校とも4割近くあったのですけれども、これがゼロになり、認知は進んでいったと捉えています。また、当区の指導主事といじめ問題対策の非常勤を置かせていただいて、学校から上がってきた報告の中身を読み、十分な対応をしているかどうかのフィードバックを学校にしておりますので、何とか学校間、学級間での差がないように努めているところでございます。

○委員 認知の向上は大切なことで、さらにそこからステップアップして、発生しないような対策を十分に練っていただきたいと思って

いますので、よろしくお願いいたします。要望です。

○教育長

東京都に報告するいじめの件数は、1ページの件数か、それとも10ページの「平成30年度学級ごとのいじめの把握・報告票によるいじめの状況」の件数なのかどちらでしょうか。それから、5ページの、「自分の状況」の③「何度も悪口を言われたり暴力を振るわれたりしている。」というのは、何度も悪口を言われたり、何度も暴力を振るわれたりという、「何度も」は後段にもかかっているのか、あるいは何度も悪口を言われたり、時には暴力を振るわれたりするところがあるという意味なのか、どうなのでしょうか。

○説明員

17ページの最後のところ、文部科学省が総務省から勧告を受けています。この勧告の内容は、都道府県の中で認知の状況に差があるということで、例えば平成29年度に関しましては、京都府が1,000人当たり96.8件であったにもかかわらず、香川県は5.0件と19倍近くの差があるということ。それから、学校によっては認知件数がゼロであるという学校が複数あるということで、法で定めたいじめの定義がしっかりと浸透していないのではないか、という勧告です。

これを受けて文部科学省から「いじめ防止対策の推進に関する調査結果に基づく勧告を踏まえた対応について」という通知が東京都を経由し、当区にもございました。そこには、いじめの認知に関する消極姿勢や認知漏れがないかを十分確認すること。いじめの認知件数がゼロであった場合は、当該事実を児童・生徒や保護者向けに公表し、検証を仰ぐことで、認知漏れがなかったか確認をすること。さらには、加害行為の継続性、集団性、一方的などの要素により、いじめの定義を限定して解釈しないようにすること。ということでした。

こういった勧告があつて、私どもとしては教員の働き方改革に逆行しないような形で、記録しやすい様式を1年間検討してまいりました。今年度からはこの様式で報告されたいじめ、ページでいいますと10ページの5、「平成30年度学級ごとのいじめの把握・報告票によるいじめの状況」を東京都に報告してまいりたいと思います。

それから、5ページの無記名式アンケートの③ですが、これは「何度も」が悪口を言われたり、暴力を振るわれたりということで、後段にもかかるという認識ですけれども、これはアンケート

ですから、受け取った側が悪口を何度か言われて、暴力は何度もないというような捉え方もあると思いますので、解釈が異なるような紛らわしい表現は正していかなければいけないと改めて認識したところがございますので、検討してまいります。

○教育長 国の通達に従って、10ページの件数を報告していくということですが、健全育成委員会で、合意は得られているということによろしいですか。

○説明員 こういう形で報告していくということを前提に様式を検討してまいりましたので、健全育成委員会、あるいは校長会からの理解は得られていると考えています。そして、今後はこういった形で報告してまいりたいと考えております。

○委員 10ページの(3)の一番右側に「1,000人当たり発生率」となっています。この92.8というのはどういう数字になのですか。

○説明員 1,000人当たり何人発生したかということで、100分率ではなく1,000分率に当たります。

○教育長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第3を議題とします。

(日程第3 学校給食使用前食材等の放射性物質検査の結果について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。

〔 資料配布  
・区内保育園における細菌性赤痢の発生後の状況と対応について 〕

○教育長 以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時23分閉会)